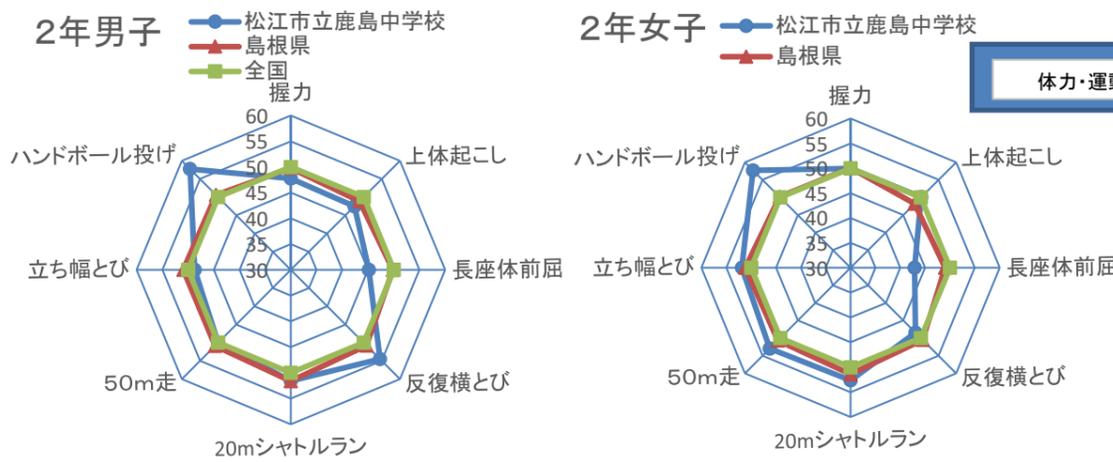


(1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)

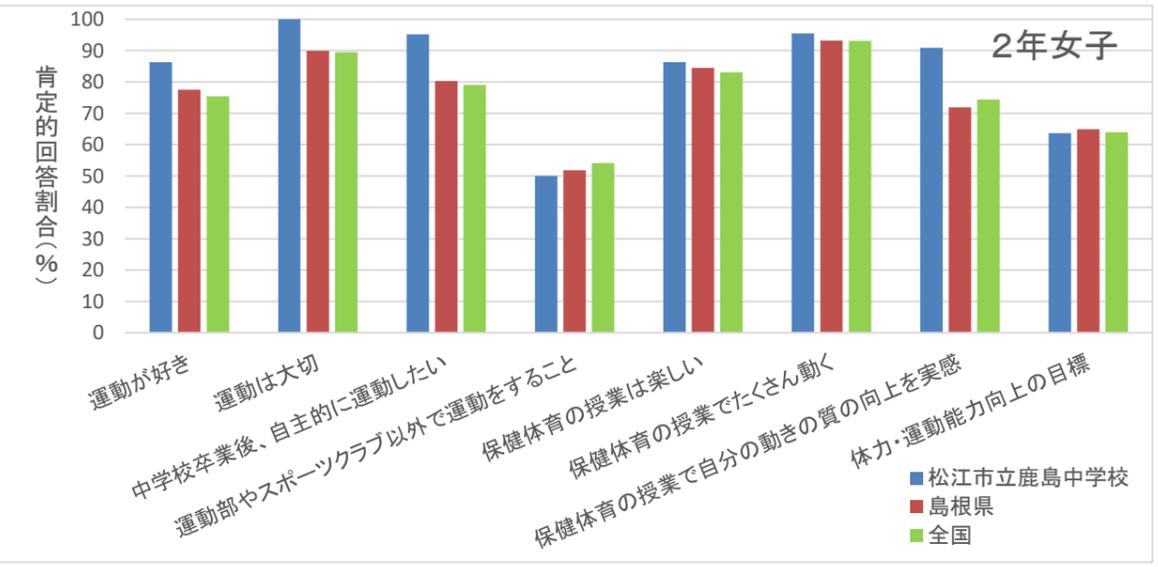
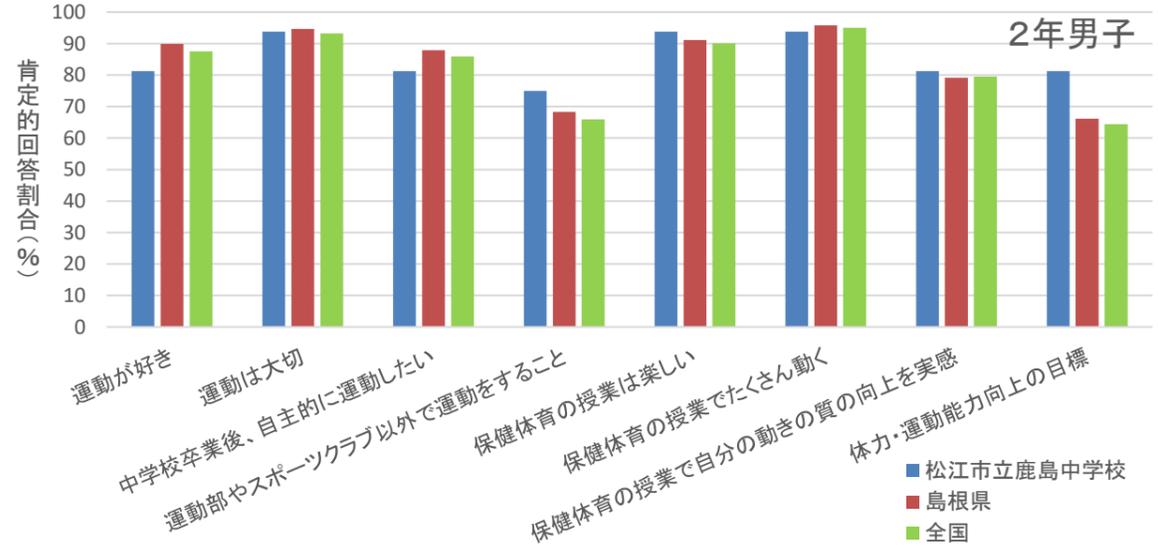
(2) 調査結果の分析



体力・運動能力面

意識面

全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査<意識調査>の結果 (体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



①体力・運動能力面

強み

- 男子では「反復横跳び」「ハンドボール投げ」が全国平均を上回っている。特に「敏捷性」「投力」が強み。
- 女子では「20mシャトルラン」「50m走」「ハンドボール投げ」が全国平均を上回っている。特に「全身持久力」「走力」「投力」が強み。

課題

- 男子では「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「立ち幅跳び」が全国平均を下回り、特に「筋力」「筋持久力」「柔軟性」が課題。
- 女子では「長座体前屈」「反復横跳び」において全国平均を下回り、特に「柔軟性」「敏捷性」が課題。

次年度の対策

- 保健体育科の授業の中で柔軟性を高める運動を継続的に取り入れる。
- 自らの課題を理解し、その改善に向けて運動に取り組むことができる場の設定。

②意識面

強み

- 男子では「運動部等以外で運動すること」「保健体育の授業は楽しい」「保健体育の授業で自分の動きの質の向上を実感」「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも高い。
- 女子では「運動が好き」「運動は大切」「中学校後も自主的に運動」「保健体育の授業は楽しい」「保健体育の授業で自分の動きの質の向上を実感」の割合が全国平均よりも高い。

課題

- 男子では「運動が好き」「中学校卒業後も自主的に運動」「保健体育の授業での運動量」の割合が全国平均よりも低い。
- 女子では「運動部以外で運動すること」「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも低い。

次年度の対策

- 「運動時間の確保」と「多様な関わり」が実践できる保健体育授業の工夫。
- 「運動の楽しさ」を経験できるように主体的に運動に関わることができる保健体育授業の工夫。
- 自らの体力の特徴について理解し、課題解決に向けて活動していける保健体育授業の工夫。

(3) 令和4年度の方針【学校全体での取組】

- ①自校の体力的課題の解決に向けた授業での工夫・改善
 - ・毎年の体力テストの結果をふまえ、全学年が共通して弱い部分(柔軟性・筋力)の運動を、体育授業前に実施する。ランニング、体幹トレーニング等も引き続き取り入れて行う。
 - ・本校では、校内ロードレース大会を目標にして持久力向上の活動を推進する。
 - ・体育館でランニング、トレーニングをする場合には、音楽を流すなどの工夫を取り入れたい。
 - ・女子の人間関係の固定化をなくすため、多様なペアを作り活動させる。
- ②運動の二極化を防ぐための授業での工夫・改善
 - ・生徒に対する教師の声かけを大切に、学習カード等を利用して課題解決につなげていく授業の展開。
 - ・学習カードで、自らの記録や授業の自己評価等を提示し、記録の変化や意識の違いが確認できるようにする。
 - ・個々の段階に応じた目標を設定させ、達成できるようにアドバイスする。
 - ・運動能力に応じたペアを作り、お互いにアドバイスや意見を伝えるようにする。
- ③授業課程で、知識を活用したり、表現したりする場面設定の工夫・改善
 - ・学習指導要領実施を受けて、各領域でペア学習やグループ学習をする場面を設定し、お互いにアドバイスをしあう場面などの対話的活動を推進する。
 - ・日頃、目にする機会が少ない武道(柔道)、器械運動の領域では、視覚機器を取り入れ、技のポイントなどを明確化する。
 - ・どの領域にもICTを活用し、技能的なイメージを持たせる。
 - ・生徒個々の記録の蓄積を提示しながら、新たな目標を持たせて活動させる。
- ④保健体育授業以外の活動(運動環境の工夫や家庭への情報発信等)
 - ・地元企業が開催する中学校陸上教室を継続する。
 - ・鹿島ふれあい学園の専門部と連携し、保護者、地域、小学校と同じ歩調で健康に関する取組を推進する。(健康チャレンジ週間の取組の充実)
 - ・栄養教諭による運動、体力と食との関係についての指導を実施する。
 - ・校内ロードレース大会における、保護者の役員依頼、地域への広報を行う。